

令和元年度
運営に関する計画
(最終評価)

大阪市立田島中学校

1 学校運営の中期目標

現状と課題

【子どもが安心して成長できる安全な社会(学校園・家庭・地域)の実現】

昨年度のいじめ認知件数は、32件あり、27件は指導を終え解消している(解消率84%)。また、5件は3か月間の経過観察中である。

昨年度の生徒アンケート「学校のきまりを守っている」項目の肯定的意見は90%であり、昨年度92%より2%減少したものの、90%以上にするという今年度の目標を達成することができた。暴力行為を複数回行う加害生徒は、2人であった。

不登校になった生徒はいない。ルールを守ろうとする意識は継続して高いが、暴力行為を複数回行う加害生徒の数は減らず、課題が残った。また、新たな不登校生徒は生まれなかったが、いじめや不登校の問題も残っている。継続的に指導・観察することで改善を目指したい。

昨年度の生徒アンケートにおいて、「命や人権の大切さについて考えたことがある」項目の肯定的意見は92%であった。一昨年度の81%より11%増加した。昨年度の生徒アンケートにおいて、「すすんであいさつをしている」項目の肯定的意見は71%であった。昨年度の生徒アンケートにおいて「学校のきまりを守っている」項目の肯定的意見は90%であった。一昨年度92%より2%減少した。昨年度の生徒アンケート「学校へ行くのが楽しい」項目の肯定的意見は84%であった。一昨年度73%より11%増加した。

学習環境が安全安心へと進んでいる状況である。また、地域の方々や来客者の方々から、「田島中学校の生徒はしっかりあいさつができる」と褒めていただくことが増えた。さらに、生徒の自己肯定感の向上につなげ、学力向上につなげていきたい。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

平成29年度および平成30年度のチャレンジテストにおける標準化得点を同一母集団で比較した結果、2.1点減少した。平成29年度および平成30年度のチャレンジテストにおける得点が、府平均の7割に満たない生徒の割合を同一母集団で比較した結果、2.6ポイント増加した。平成29年度および平成30年度のチャレンジテストにおける得点が、府平均の2割以上上回る生徒の割合を同一母集団で比較した結果、以下の通り0.2ポイント増加した。得点力としては、昨年度の目標を達成することは難しかったが、授業改善において習熟度少人数授業や学力補充の取組に重点を置いた結果、昨年度の生徒アンケートにおいて、「授業で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」項目の肯定的意見は62%となり一昨年度35%より27%増加した。今年度も引き続き、学力向上推進モデル授業施策などを活用し、学力向上をめざすことが必要である。また、昨年度の体力運動能力運動調査において、課題であった、立幅跳び2年男女平均は4.66であり、一昨年度の3.71より0.95ポイント向上したが、目標値を達成することができなかった。運動が苦手な生徒に対して、苦手意識を払拭させるような取り組みを実施する必要がある。昨年度の生徒アンケートにおいて、「家に帰ってから勉強する時間を毎日とっている」項目の肯定的意見は51%で、一昨年度42%より9%増加したが、家庭学習の在り方について課題である。昨年度の生徒アンケートにおいて「授業で意見や答えを考えたり、発表したりすることが多い」項目の肯定的意見は46%で、

一昨年度３２％より１４％増加し、授業改善図られており、今年度も継続した取組みを進めていく。生徒アンケートにおいて「授業がよくわかる」項目の肯定的意見は７９％であった。一昨年度６４％より１５％増加し、授業改善が図ることができており、継続して授業改善を取り組んでいく。昨年度の生徒アンケート「健康に気をつけている」項目の肯定的意見は９０％で、一昨年度８３％より７％増加し、健康に関する関心は高まっている。

中期目標

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

- 平成３３年度の全国学力・学習状況調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえばあてはまる）」と答える生徒の割合を、９割以上にする。
- 平成３３年度の全国学力・学習状況調査における「自分には良いところがありますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえばあてはまる）」と答える生徒の割合を、８割以上にする。
- 平成３３年度の全国学力・学習状況調査における「将来の夢や目標を持っていますか」の項目について、「あてはまる（どちらかといえばあてはまる）」と答える生徒の割合を、９割以上にする。
- 平成３３年度の全国学力・学習状況調査における「人の役に立つ人間になりたいと思う」の項目について、「あてはまる（どちらかといえばあてはまる）」と答える生徒の割合を、９割以上にする。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- 平成３２年度末の生徒アンケートにおける「帰宅後勉強する時間を毎日とっている」と答える生徒の割合を８割以上にする。
- 平成３３年度の全国学力・学習状況調査における「普段の授業で自分の考えを発表する機会が与えられていると思いますか」の項目の肯定的回答率を全国平均レベルに向上させる。
- 平成３３年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計点を男女ともに全国平均値より向上させる。
- 平成３３年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査における「自分の体力に自信がありますか」の項目の男女ともに肯定的回答率を全国平均レベルに向上させる。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

全市共通目標（小・中学校）

- 平成 31 年度末校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を 95%以上にする。
- 平成 31 年度末の校内調査において、「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を 90%以上にする。
- 平成 31 年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害生徒の数を前年度より減少させる。
- 平成 31 年度末の校内調査において、新たに不登校になる生徒の割合を前年度より減少させる。

学校園の年度目標

- ① 今年度末の生徒アンケートにおける「すすんであいさつをする」と答える生徒の割合を 80%以上にする。（前年度 71%）
- ② 今年度末の生徒アンケートにおける「生徒会や委員会活動に積極的に参加している」と答える生徒の割合を 70%以上にする。（前年度 66%）
- ③ 今年度末の生徒アンケートにおける「あなたは時間を守って生活できていますか」と答える生徒の割合を 70%以上にする。
- ④ 今年度末の生徒アンケートにおける「忘れ物をしない」と答える生徒の割合を 80%以上にする。（前年度 77%）

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

全市共通目標（小・中学校）

- 平成 31 年度のチャレンジテストにおける標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。
- 平成 31 年度のチャレンジテストにおける得点が府平均の 7 割に満たない生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント減少させる。
- 平成 31 年度のチャレンジテストにおける得点が府平均の 2 割以上上回る生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント増加させる。
- 平成 31 年度の校内調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、前年度より増加させる。
- 平成 31 年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、特に課題である『長座体前屈』の平均の記録を、前年度より 1 ポイント向上させる。

学校園の年度目標

- ① 今年度末の生徒アンケートにおける「授業時間外で勉強する時間を毎日とっている」と答える生徒の割合を 60%以上にする。（前年度 51%）
- ② 今年度末の生徒アンケートにおける「授業で意見や答えを考えたり、発表したりすることが多い」と答える生徒の割合を 50%以上にする（前年度 46%）
- ③ 今年度末の生徒アンケートにおける「授業がよくわかる」と答える生徒の割合を 80%以上にする。（前年度 79%）

【その他】小中一貫した教育の推進

学校園の年度目標

- ① 児童・生徒・教員の連携・交流を図る検討組織を活性化する。
- ② 9 年間の小中一貫した教育のカリキュラムの作成に取り組む。

3 本年度の自己評価結果の総括

ルールを守ろうとする意識は高く、暴力行為を行う生徒も少ないため、安心できる学校環境が構築できている。しかし、長期欠席や遅刻などの課題は多いため、生徒を継続的に指導・観察していく必要がある。

多くの生徒が、時間を守り、落ち着いた学校生活を送れている。また、挨拶や委員会活動など、前年度よりも積極的に行動できる生徒が増えた。しかし、忘れ物については大きな課題を残す結果となった。より一層の指導や支援の他に、ICT を活用するなど、情報発信・伝達の方法を見直す必要がある。

チャレンジテストの結果から、生徒間の学力差は少し縮まったものの、依然としてその差は大きく、今後も習熟度別少人数授業や学力補充の取組が重要である。また、授業での話し合う活動や、考えを深めたりする活動は、目標を達成しているものの、その値は高くなく、今後も課題である。体力の向上については、前年度より大きく記録が伸び、全国平均も超えている。

授業で考えたり発表したりすることが多くなった一方で、授業内容の理解度は減少しており、授業改善がもとめられる。また、授業時間外の学習時間については、上半期と下半期で大きく異なり、下半期に急増する。日ごろから目的意識を持って学習に取り組む姿勢の育成も必要である。

(様式2)

大阪市立田島中学校 平成31年度 運営に関する計画・自己評価(総括シート)

評価基準	A:目標を上回って達成した	B:目標どおりに達成した
	C:取り組んだが目標を達成できなかった	D:ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【子どもが安心して成長できる安全な社会(学校園・家庭・地域)の実現】</p> <p>全市共通目標(小・中学校)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○平成31年度末校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。 ○平成31年度末の校内調査において、「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を90%以上にする。 ○平成31年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害生徒の数を前年度より減少させる。 ○平成31年度末の校内調査において、新たに不登校になる生徒の割合を前年度より減少させる。 <p>学校園の年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ①今年度末の生徒アンケートにおける「すすんであいさつをする」と答える生徒の割合を80%以上にする。(前年度71%) ②今年度末の生徒アンケートにおける「生徒会や委員会活動に積極的に参加している」と答える生徒の割合を70%以上にする。(前年度66%) ③今年度末の生徒アンケートにおける「あなたは時間を守って生活できていますか」と答える生徒の割合を70%以上にする。 ④今年度末の生徒アンケートにおける「忘れ物をしない」と答える生徒の割合を80%以上にする。(前年度77%) 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】健康教育部 防災・減災教育の推進</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大規模災害初期対応マニュアル等の見直しを行い、避難訓練を含む防災訓練を年間2回以上、区役所や消防署と連携して実施する。 ・年1回以上AED講習を教職員と生徒に実施する。 	A
<p>取組内容②【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】生活指導部 学校生活ルールを基に、基本的な生活習慣の確立と学校の規則を守る生徒の育成を図る。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成31年度末の生徒アンケートにおいて、「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を90%以上にする。 ・今年度末の生徒アンケートにおける「あなたは時間を守って生活できていますか」 	B

と答える生徒の割合を 70%以上にする。 ・がんばりカードや賞状、皆勤賞等の表彰を学期に 1 回実施し、生徒の成長を見える化し、自己肯定感を向上させる。	
取組内容③【施策 1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】教務部 全学年 部活動担当者 教育環境の整備 ホームページを通して、保護者や地域に情報を周知する。	
指標 ・時間割や提出物の周知に努め、今年度末の生徒アンケートにおける「忘れ物をしない」と答える生徒の割合を 80%以上にする。(前年度 77%)。 ・各学年週に 1 回は学年の取組や提出物の内容、また各部活動がそれぞれの取組状況や予定を配信する。 ・ホームページのアクセス数を昨年度以上にする。	C
取組内容④【施策 2 道徳心・社会性の育成】特別支援担当 校内のインクルーシブ教育の充実を図るため、支援体制を確立する。	
指標 障がいのある生徒一人一人に「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」を作成し、その計画に基づいて効果的な指導や適切な支援を行う。 特別支援サポーターを効果的に活用する。	B
取組内容⑤【施策 1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】生活指導部 好ましい人間関係や信頼関係を確立する集団を育成する。	
指標 ・いじめアンケートを年間 3 回、Q-U テストを実施し、生徒の実態把握を図るとともに、実態に基づいた指導を行う。	B
取組内容⑥【施策 3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援】教務部・国語科 読書環境を整え、図書館を活用した学習や読書活動の活性化を図り、元気アップコーディネーター、図書館補助員と連携を図る。	
指標 ・図書館利用者の割合を前年度より増やす。 ・元気アップ事業との連携した取り組みを行う。	A
取組内容⑦【施策 2 道徳心・社会性の育成】全学年 性と生を考える取組を推進する。	
指標 ・年間各学年 1 回の取組を実施する。	A
取組内容⑧【施策 3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援】進路指導委員会 ・将来の夢や目標に基づいて、自分の進路について考えさせるとともに、「進路だより」を通して、入試制度など進路に関わる情報を生徒・保護者に積極的に発信し、理解を得ていく。	
指標 ・進路だよりを年間 10 回発行し、入試制度など進路に関わる情報を生徒・保護者に積極的に発信し、またホームページも活用して情報を配信する。	B
取組内容⑨【施策 3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援】全学年 ICT 機器を活用し、学校ホームページなどを通して、学校の様子や提出物等の情報を配信し、生徒・保護者に理解を得ていく。	
指標	C

・ICT機器を活用し、ホームページなどを通して、学校の様子や提出物等の情報を配信することで、今年度末の生徒アンケートにおける「忘れ物をしない」と答える生徒の割合を80%以上にする。(前年度77%)	
取組内容⑩【施策2 道徳心・社会性の育成】生活指導部、人権部会 道徳心・社会性の向上を図り、3年間を通した系統的な道徳の授業に取り組む。	B
指標 ・平成31年度末校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。	
取組内容⑪【施策2 道徳心・社会性の育成】生活指導部 生徒会や委員会活動を積極的に参加している生徒を増やす。	C
指標 ・今年度末の生徒アンケートにおける「生徒会や委員会活動に積極的に参加している」と答える生徒の割合を70%以上にする。(前年度66%)	
取組内容⑫【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】全学年 好ましい人間関係や信頼関係を確立する集団を育成する。	C
指標 ・各学年であいさつ運動に対する取り組みを推進し、今年度末の生徒アンケートにおける「すすんであいさつをする」と答える生徒の割合を80%以上にする。(前年度71%)	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<p>【年度目標の進捗状況】</p> <p>全市共通目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 今年度12月末現在のいじめ認知件数は11件であり、うち10件はいずれも指導を終え解消している(解消率90.9%)。また、残りの1件は経過観察中である。解消率95%以上という数値目標は達成できていないが、いじめ認知件数も少なく、未解消は最小の1件だけと、十分目標を達成していると判断できる。 ○ 生徒アンケート「学校のきまりを守っている」項目の肯定的意見は89%であった。年度目標(90%以上)をわずかに達成することはできなかったが、前年度の90%から継続して高い水準を保っている。 ○ 今年度、暴力行為を複数回行う加害生徒はおらず、前年度の2名から減少し、目標を達成することができた。 ○ 2学期末現在で、今年度新たに不登校になった生徒はおらず、前年度と変わらず目標を達成することができた。しかし、体調面などを理由に長期欠席をしている生徒が9名おり、また遅刻が多い生徒が複数名いるため、引き続き丁寧に対応していく必要がある。 <p>ルールを守ろうとする意識は高く、暴力行為を行う生徒も少ないため、安心できる学校環境が構築できている。しかし、長期欠席や遅刻などの課題は多いため、生徒を継続的に指導・観察していく必要がある。</p> <p>学校園の年度目標</p> <p>① 生徒アンケート「すすんであいさつをする」項目の肯定的意見は79%であった。年度</p>

目標（80%以上）をわずかに達成することはできなかったが、前年度の 71%からは 8 ポイント改善することができた。

- ② 生徒アンケート「生徒会や委員会活動に積極的に参加している」項目の肯定的意見は 69%であった。年度目標（70%以上）をわずかに達成することはできなかったが、前年度の 66%からは 3 ポイント改善することができた。
- ③ 生徒アンケート「あなたは時間を守って生活できていますか」項目の肯定的意見は 78%であった。年度目標（70%以上）を大きく上回ることができた。
- ④ 生徒アンケート「忘れ物をしない」項目の肯定的意見は 69%であった。年度目標（80%以上）に大きく及ばず、前年度の 77%よりも大きく下回る結果となった。

多くの生徒が、時間を守り、落ち着いた学校生活を送れている。また、挨拶や委員会活動など、前年度よりも積極的に行動できる生徒が増えた。しかし、忘れ物については大きな課題を残す結果となった。より一層の指導や支援の他に、ICT を活用するなど、情報発信・伝達の方法を見直す必要がある。

【各取組内容の進捗状況】

- ① 3 回の防災訓練と 1 回の健康教育講習会を行った。
4 月 22 日に、生野区役所と連携して火災を想定した避難訓練を行った。6 月 24 日に、集団下校訓練を行った。9 月 5 日の大阪 880 万人訓練では、地震・津波に備えるための啓発資料を全校生徒に配付した。7 月 18 日に、熱中症・AED 講習会を行った。
- ② 生徒アンケートにおいて、学校のきまりを守っていると肯定的に答えた生徒の割合は 89%であった。また、保護者アンケートで、子どもの服装・頭髮・持ち物は適切であると肯定的に答えた保護者の割合は 99%であり、生徒・保護者ともに学校生活のルールの周知・徹底ができています。
生徒アンケートにおいて、時間を守って生活できていると肯定的に答えた生徒の割合は 78%であり、目標を 8 %も上回っていた。生徒集会を行うことによって、生徒各委員会、生徒議会で活発な意見が生まれ、時間に対する議論が多く行われたことが結果に表れている。
学期ごとに皆勤賞の表彰を行った。その結果、生徒の間で皆勤賞を意識した発言が増えてきており、生徒の成長が感じられた。
- ③ 時間割や提出物の周知は、終学活での周知が中心となっており、その結果、生徒アンケートで「忘れ物はしない」と答える生徒の割合は 69%と、目標の 80%に大きく届いていない。各学年の取組は次のとおりである。
1 年生では、ファイルをつくり、毎日連絡帳の記入をしている。しかし、忘れ物をしてしまう生徒ほどいい加減に記入してしまうため、確認をしていく必要がある。1 年生から忘れ物をしないように日ごろから確認させる必要がある。
2 年生では、終学活で次の日の時間割と提出物を毎回確認し、必要に応じて連絡帳に記入させ確認を行ったが、2 年生のアンケート結果は 67%であった。結果的には、終学活の確認だけでは足りなかったが、連絡帳を導入して忘れ物が減少した生徒もいた。
3 年生では、毎日連絡帳を記入しているが、家庭でそれを確認しない為かアンケートの結果は 66%と低かった。
学校ホームページは、学校行事の紹介や学年の取組、配布物の案内、各部活動の活動内容・予定などを配信し、アクセス数は 12 月末現在で 14、434 にのぼる。今年度は前年度実績 17、966 を超えるアクセス数が見込まれる。
- ④ 「個別の教育支援計画」、「個別の指導計画」を元に、個の実態に応じた支援体制を実施。

年間を通して、在籍生徒一人ひとりには学校生活や学習に意欲的に取り組んでいるが、不登校生徒に対して十分な登校支援ができず、欠席等の改善には至っていない。また、各自の進路を意識した支援は、日々の活動の中で話し込んだ結果、ほとんどの生徒は自分の将来について意識し始めている。特に3年生は、自分の進路獲得に向けて取り組もうと進みつつある。

- ⑤ いじめアンケートを、5月、10月、2月（予定）に、計画通り年間3回実施した。また、Q-Uアンケートも年間2回実施し、その結果を各クラスで分析シートにまとめ職員間で共有した。アンケートを行うことで、いじめの早期発見・対応ができた事案も見られた。
- ⑥ 国語科では、レポート作成のための資料集めや、本のPOP作成などの授業で図書室を活用した。また、1年生では、図書館の使い方や資料の探し方を学ぶ授業を実施した。図書室の開館については、週4日程度、昼休みに開館している。また、元気アップと連携し、放課後は毎日図書室を開館している。月1回の図書館だよりの発行や、図書館支援員による読み聞かせの実施などを行い、読書活動の活性化を促している。その結果、図書室利用者数は前年度12月末現在のべ576名に対して、今年度は12月末現在のべ661名であり、前年比115%であった。
元気アップ放課後学習会は、12月末現在で110日開催し、のべ532人の参加があった。
- ⑦ 「性と生を考える取組み」として、11月に全学年で性に関する指導の公開授業を行った。また、1年生は、7月に男女交際についての授業を行い、1月にはティーンズヘルスセミナーを行った。2年生は、1月にティーンズヘルスセミナーを行った。3年生は、3年間ティーンズヘルスセミナーを受講し、「命や性に対する大切さについて考えたことがある」の項目で目標値の82%を上回った。
- ⑧ 1月末現在、「進路だより」を12号まで発行した。また、学校説明会等の案内は、生徒や保護者にホームページを活用して情報配信を行った。7月と11月に進路説明会を開催した。3年生に高校の説明会や体験授業に積極的に参加するよう促した結果、89%の生徒が説明会に参加し、進路選択を能動的に行えた。
- ⑨ 1年生・3年生は、ホームページに行事等の記事をアップしてもらい、生徒の様子を伝えることができたが、日々の持ち物や提出物等についてはホームページを活用できていない。2年生は、職場体験での連絡や、長期休業中に登校する際の持ち物などをホームページで配信した。
- ⑩ 道徳と人権教育は、3年間を通して系統的に計画しており、概ね計画通りに実施できた。また、差別的な表現などの指導も徹底して行った。その結果、いじめ認知件数も少なく、解消率も高い割合を示している。
- ⑪ 2学期から、全校集会の前に生徒会主導で生徒集会を実施しており、生徒議会や生徒各委員会に参加する生徒が主体的に動ける場を設定した。その結果、生徒アンケートで、「生徒会や委員会活動に積極的に参加している」と肯定的に答える生徒の割合は69%であった。目標値には1%足りなかったが、中間結果より8%向上していた。
- ⑫ 生徒アンケートにおける「すすんであいさつをする」と答える生徒の割合は79%であった。目標には1%足りなかったが、前年度から8%向上した。また、登校時のあいさつ運動では、多いときには20名をこえる生徒が参加した。
1年生では、登下校時にとどまらず、授業の始めと終わりのあいさつも徹底しており、82%と目標を上回った。2年生は、終学活で毎日の良かったことと反省点をお互いに発表し合い、ダメなことはダメと言える関係作りが進められている。その結果、86%と目標を大きく上回った。3年生は70%と、中間結果からも2%下回る結果となった。

次年度への改善点

- ① 土曜授業での防災教育等を活用し、保護者・地域等と連携しながら生徒が主体的に取り組める防災・減災教育を工夫していく。
- ② 生徒議会や生徒各委員会を利用して、学校生活のルールを生徒が主体的に考える場を設ける。
- ③ 「忘れ物をしない」を全学年で統一して目標に掲げ、生徒への目標の周知、保護者への呼びかけを行う。また、小学校の忘れ物対策の取組を学び、小学校から一貫した忘れ物対策に取り組む。
家庭で準備をする習慣が定着しておらず忘れ物が続くため、家庭との連携を図っていく。そのため、学校からの配布物はすべて Web 閲覧できるよう学校ホームページに掲載する。また、保護者に学校ホームページの利用方法を周知し、学校ホームページを中心とした情報公開環境を整備する。
- ④ 個別の教育支援計画について、保護者と協議しながら作成することになるため、保護者の思いを受け止められる支援体制の確立を目指す。そのためにも、1、2 年生については 3 学期に次年度に向けての懇談会を持ち、意見交流の場を積極的に設け、支援の確立を図る。また、新入生についても入学前に個別の相談会を持つ。
不登校傾向の特別支援学級在籍生徒が増える中、その対策・支援の具体的方策を探る。また、特別支援サポーターと教科担当が交流できる機会を積極的に設ける。
- ⑤ 研修会を開催し、Q-U アンケート・いじめアンケートの必要性や活用法を全教員に周知する。3 年生は進路に向けた取組があるため、実施日を再検討する必要がある。
- ⑥ 国語科の学習活動で図書室を使用する取組を増やす。
図書室の利用を増やすために、受験対策コーナーの設置やタブレットを活用したインターネットコーナーの設置を検討していく。
- ⑦ 性教育は 3 学年での学習カリキュラムが整備されてきたので、次年度以降は学年の実態に応じて変化させながら継続して取り組む。
- ⑧ 進路だよりやホームページ等を通じて、情報発信量をさらに増やしていく。また、外部講師を招いた出前授業も積極的に活用し、キャリア教育を充実させていきたい。
- ⑨ 学校ホームページ担当を設け、積極的なホームページ運用を行う。また、各学年においては、それぞれの活動において写真等の記録を残す。
全教員が記事の投稿ができるよう研修を行う。
- ⑩ 今後も人権意識を高めるために系統立てた人権教育の計画と実践を進めていく。また、道徳心・社会性の向上を図り、3 年間を通した系統的な道徳の授業に取り組む。
- ⑪ 生徒集会、生徒各委員会、生徒議会を、生徒が主体的に活動できる場として確立する。
- ⑫ 各学年であいさつ運動に対する取組を推進し、学年集会であいさつ名人の発表を行うなど、頑張っている生徒をほめる活動に力を入れる。

(様式2)

大阪市立田島中学校 平成31年度 運営に関する計画・自己評価(総括シート)

評価基準	A:目標を上回って達成した	B:目標どおりに達成した
	C:取り組んだが目標を達成できなかった	D:ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</p> <p>全市共通目標(小・中学校)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 平成31年度のチャレンジテストにおける標準化得点を、いずれの学年も同一母集団で比較し、前年度より向上させる。 ○ 平成31年度のチャレンジテストにおける得点が府平均の7割に満たない生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント減少させる。 ○ 平成31年度のチャレンジテストにおける得点が府平均の2割以上上回る生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント増加させる。 ○ 平成31年度の校内調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、前年度より増加させる。 ○ 平成31年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、特に課題である『長座体前屈』の平均の記録を、前年度より1ポイント向上させる。 <p>学校園の年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 今年度末の生徒アンケートにおける「授業時間外で勉強する時間を毎日とっている」と答える生徒の割合を60%以上にする。(前年度51%) ② 今年度末の生徒アンケートにおける「授業で意見や答えを考えたり、発表したりすることが多い」と答える生徒の割合を50%以上にする(前年度46%) ③ 今年度末の生徒アンケートにおける「授業がよくわかる」と答える生徒の割合を80%以上にする。(前年度79%) 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策6 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】全学年ICTを活用した教育を推進し、生徒が互いに教え合い学び合う協働的な学びや、思考力・判断力・表現力の育成につながる言語活動等を充実させ、授業の質を向上し、「自分で考え判断する力」、「自分の考えを豊かに伝える力」、「ICT機器を活用する力」を備えた生徒を育成する。</p> <p>指標</p> <p>各生徒が月に4回は、タブレットを活用した取組みや学習を行うよう取り組む。</p>	A

<p>取組内容②【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】教務部 朝読書の充実や図書館活用を図り、読書の機会を増やす。</p> <p>指標 それぞれの学年で、週1日以上の朝読書を実施する。</p>	A
<p>取組内容③【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】全教科 全ての学習の基盤となる言語能力等の育成を重視し、主体的・対話的で深い学びの視点から、学習・指導方法の普段の改善を図るための実践研究を行う。その中で、すべての授業において「本時(単元)の目標(めあて)」「本時(単元)のまとめ」をわかりやすく提示する。</p> <p>指標 ・生徒アンケートを2回行い、「授業で、目標(めあて)やまとめが示されていますか」という項目において、肯定的な回答する割合を70%以上にする。</p>	A
<p>取組内容④【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】教務部 全教科 基礎・基本の定着と充実を図る。基礎学力の定着のため、授業を大切にする意識を持たせ、わかりやすい授業をめざし、家庭学習の習慣もつけさせる</p> <p>指標 ・今年度末の生徒アンケートにおける「授業時間外で勉強する時間を毎日とっている」と答える生徒の割合を60%以上にする。(前年度51%)</p>	B
<p>取組内容⑤【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】国語科、数学科、英語科 ティームティーチングや習熟度別少人数授業を行い、基礎・基本の定着と、発展的内容の指導の充実を図る。</p> <p>指標 ・平成31年度のチャレンジテストにおける得点が府平均の7割に満たない生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント減少させる。 ・今年度末の生徒アンケートにおける「授業がよくわかる」と答える生徒の割合を80%以上にする。(前年度79%) ・英検IBAテストにおいて英検3級レベル以上の割合を大阪市平均よりも上回る。</p>	B
<p>取組内容⑥【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】全学年 進路講話、職場体験、職業調べ等のキャリア教育を通じて、卒業後の進路を見つめ、将来の夢や目標について考えさせる。また、進路決定に向けた準備を進めるとともに、進路に対する意識を高める取組みをすすめる。</p> <p>指標 ・将来の夢や目標について考えさせる取組みを年間1回以上実施する。 ・今年度末の生徒アンケートにおける「将来の夢や目標がある」と答える生徒の割合を前年度以上にする。(前年度80%)</p>	B
<p>取組内容⑦【施策7 健康や体力を保持増進する力の育成】健康教育部、体育科 健康管理・体力づくりを意識させる取組を実施する。</p> <p>指標 実施後のアンケートに肯定的意見を50%以上にする</p>	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

【年度目標の進捗状況】

全市共通目標

- 平成 30 年度および令和元年度のチャレンジテストにおける標準化得点を同一母集団で比較した結果、以下の通り 3 年生は 0.2 点、2 年生も 4.0 点増加して、どちらの学年も目標を達成することができた。

平成 30 年度 2 年生 94.8 点 ⇒ 令和元年度 3 年生 95.0 点(5 教科)

平成 30 年度 1 年生 100.4 点 ⇒ 令和元年度 2 年生 104.4 点(3 教科)

- 平成 30 年度および令和元年度のチャレンジテストにおける得点が、府平均の 7 割に満たない生徒の割合を同一母集団で比較した結果、3 年生は 4.1 ポイント減少し、目標を達成し、2 年生も 7.5 ポイント減少し、目標を達成することができた。

平成 30 年度 2 年生 32.1% ⇒ 令和元年度 3 年生 28.0%

平成 30 年度 1 年生 22.4% ⇒ 令和元年度 2 年生 14.9%

- 平成 30 年度および令和元年度のチャレンジテストにおける得点が、府平均の 2 割以上上回る生徒の割合を同一母集団で比較した結果、3 年生は 0.2 ポイント減少し、目標を達成することはできなかったが、2 年生は 1.3 ポイント増加し、目標を達成することはできた。

平成 30 年度 2 年生 30.2% ⇒ 令和元年度 3 年生 30.0%

平成 30 年度 1 年生 30.6% ⇒ 令和元年度 2 年生 31.9%

- 生徒アンケート「授業で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」項目の肯定的意見は 63%であった。前年度の 62%を 1%上回り、目標を達成することができた。

- 今年度の長座体前屈 2 年男女平均は 47.44 cmであり、昨年度の 41.59 cmより 5.85 ポイント向上し、目標を達成することができた。

チャレンジテストの結果から、生徒間の学力差は少し縮まったものの、依然としてその差は大きく、今後も習熟度別少人数授業や学力補充の取組が重要である。また、授業での話し合う活動や、考えを深めたりする活動は、目標を達成しているものの、その値は高くなく、今後も課題である。体力の向上については、前年度より大きく記録が伸び、全国平均も超えている。

学校園の年度目標

- ① 生徒アンケート「授業時間外で勉強する時間を毎日とっている」項目の肯定的意見は 63%であった。前年度の 51%から大きく改善し、年度目標（60%以上）を達成することができた。
- ② 生徒アンケート「授業で意見や答えを考えたり、発表したりすることが多い」項目の肯定的意見は 51%であった。前年度の 46%から大きく改善し、年度目標（50%以上）を達成することができた。
- ③ 生徒アンケート「授業がよくわかる」項目の肯定的意見は 75%であった。前年度の 79%にも満たず、年度目標（80%以上）を達成することができなかった。

授業で考えたり発表したりすることが多くなった一方で、授業内容の理解度は減少しており、授業改善がもとめられる。また、授業時間外の学習時間については、中間結果から大きく改善された。特に入試を控えた 3 年生の値が急増したが、日ごろから目的意識を持って学習に取り組む姿勢の育成も必要である。

【各取組内容の進捗状況】

- ① タブレットは、各教科での活用に加え、総合での調べ学習等にも活用している。
1 年生では職業調べなどのキャリア学習、2 年生では修学旅行に向けた平和学習、3 年生では進路学習などで活用した。

なお、12 月末現在で、タブレット端末の 1 学級あたりの月平均活用数は 18.6 回であり、目標の 4 回を大幅に上回っている。

- ② 今年度は「朝学習の時間は、主として落ち着いて読書をする」とし、全校集会・学年集会の日以外はすべて朝読書の取組としている。結果、週 2 日以上、朝読書の取組が実施できている。しかし、生徒アンケートにおける「読書をしている」と答える生徒の割合は 39%であり、より一層の読書活動の推進が必要である。

- ③ 生徒アンケートの「授業で、目標（めあて）やまとめが示されていますか」の項目において、中間結果では 86%、最終結果では 89%の肯定的な回答が得られ、目標を大きく上回った。

国語科は、1 時間の授業内で必ず読む・聞く・話すの活動を入れるようにした。また、1・2 年生では学力向上の取組として研究授業を毎月 2 回程度行い、授業の質の向上に努めた。社会科では、すべての授業プリントにその単元内容が明記され、めあてやまとめは一目でわかるようになっている。数学科では、すべての授業において「本時(単元)の目標(めあて)」「本時(単元)のまとめ」をわかりやすく提示している。また、月 2 回以上の研究授業を行っている。理科では、毎時間授業内容のテーマやキーワード（重要語句）を授業の冒頭で提示して授業を行った。英語科では、ユニット毎に学習する文法事項を目当てとし、定着プリントで確認した。音楽科では、すべての授業において「本時の学習内容」や「本時の目標」「次の目標」を提示し、単元ごとに生徒に実技練習振り返りシートを記入させている。美術科では、すべての授業において「本時の学習内容」や「本時の目標」「次の目標」を提示し、毎時間生徒に自己評価シートを記入させている。授業アンケートでは、「学習内容の習得」の項目において「そう思う」「だいたいそう思う」と答えた生徒は 96%だった。保健体育科では、実技教科とし安全に実技が行える環境を整えている。種目に応じてグループ学習を行い、コミュニケーションを通して互いに高め合えるようにした。技術科では、授業前に本時に行う内容や連絡事項を板書し、授業を行った。家庭科では毎時間、学習内容と目標を板書し、生徒には毎時間、授業カードに学習内容とまとめを、授業プリントに目標を記入させた。

- ④ 生徒アンケートにおいて「授業時間外で勉強する時間を毎日とっている」と答える生徒の割合は、年度目標 60%以上に対し 63%であった。中間結果から 11%も上昇し、特に 3 年生では 25%も上昇した。

各教科の取組は次のとおりである。国語科では、毎日の授業で家庭学習用の課題を与え、その学習内容の定着を確認する小テストを授業で定期的実施した。社会科では、小テストや定期テストの勉強につながる提出物を考え、宿題を精査して配布した。数学科では、毎週 1 回以上教科会を開催し、授業進捗や学習支援について検討を行った。具体的には、授業規律をはじめ、本時の目標の提示や授業のまとめ、宿題の方法などを検討した。また学力向上の取組で毎月 2 回研究授業を行った。理科では、実験・観察の授業や

ICT 機器を活用した調べ学習を積極的に実施した。英語科では、単語テストを頻繁に行い基礎学力の定着に重きを置いた。3 学年共に百問テストを実施し、生徒のやる気を引き上げた。音楽科では、「個の状況に応じた支援」の項目で「そう思う」「だいたいそう思う」と回答した生徒が全体の 88%であった。美術科では、研修に参加し、授業の研究・改善を行った結果、「個の状況に応じた支援」において肯定的な回答が 93%だった。保健体育科では、実技では各種目に共通する筋トレや柔軟、ストレッチ運動を大切にし、毎時間行うことを基本として基礎を固めることができた。技術科では、PC やタブレットを活用することで、日常生活で活用しうる基本的な操作について触れることで、操作に戸惑うことなく、授業内容に取り組みさせることができた。家庭科では、ICT 機器を用いて視覚的にわかる授業づくりを行った。また、毎時間授業カードと授業プリントを回収し、生徒に授業中にやるべきことは授業内で行う習慣をつけさせた。

- ⑤ チャレンジテストにおける得点が、3 年生の府平均の 7 割に満たない生徒の割合を同一母集団で比較した結果、前年度から 4.1%減少した。一方、生徒アンケート「授業がよくわかる」項目の肯定的意見は 75%と、目標にしていた 80%を下回った。

国語科は、ティームティーチングや定期的に少人数授業を行い、単元に合わせた指導を行った。教科アンケートでは、約 87%の生徒が「国語の学習はわかる」と肯定的に答えた。数学科では、1 学期は全授業習熟度別授業かティームティーチングを行い、計画以上に実施した。昨年度末は、「授業がわかりやすい」と答えた生徒は 71%であったが、今年度末は 90%と 19%も向上した。英語科では、全クラス、ティームティーチング、及び習熟度別少人数の授業を行い、よりきめ細やかな授業を行った。3 学期の習熟度別少人数の授業に関して、82%の生徒が「英語の学習はわかる」と答えた。IBA の結果は英検 3 級レベル以上の割合が 58.3%と大阪市平均の 54.0%を上回った。

- ⑥ 将来の夢や目標について考えさせる取組を各学年実施している。また、生徒アンケートにおける「将来の夢や目標がある」と答える生徒の割合は、年度目標 80%以上に対し、78%であった。中間結果から 2%向上したものの、前年度の 80%を超えることができなかった。

各学年の取組は次のとおりである。1 年生ではキャリア教育として、11 月に S P トラップを実施した。また、2 月には職業講話を予定している。しかし「将来の夢や目標がある」と答える生徒の割合は 78%にとどまった。2 年生では、職場体験や職業講話を行い、進路学習も 2 学期から行っている。その結果生徒アンケートは 82%と目標を達成した。3 年生では、11 月に面接指導として高校の先生からご指導を頂いた。生徒アンケートの「将来の夢や目標がある」と答える生徒の割合が 74%と目標値には達しなかった。

- ⑦ 新体力テストの結果、ほとんどの種目で全国平均を上回った。水泳大会後のアンケートでは、スポーツへの関心が高まると答えた生徒の割合が 78%であった。

健康の大切さについて、生徒を主体とした啓発活動や保健便りでの周知などを年間通して進めたことにより、生徒アンケート「健康に気を付けている」で肯定的に答える生徒の割合が 87%であった。

次年度への改善点

- ① 今年度のタブレット活用事例を共有し、次年度さらにタブレットを活用する場面を増やしていく。また、生徒アンケートの質問項目に I C T 機器の活用に関する項目を追加し、生徒の反応を捉え、さらなる改善につなげる。

- ② 学級文庫の充実、図書室の利用改善、図書コーナーの新設など、生徒が利用しやすい読書環境を整備する。
- ③ 校内研修において、めあて・まとめの必要性を周知する。また、国語科、数学科で2年間取り組んだ学力向上推進モデル校事業の内容を全教員に還元する取組や研修を行う。
- ④ 基礎・基本の定着と充実を図るため、数学科では、宿題や小テストを利用して家庭学習の定着を継続して実施する。また、指導方法の改善を図るため、実践研究の協議を教科会（週1回）で実施する。理科では、タブレットを活用した実験計画・まとめの方法等の工夫を行う。英語科では、授業でタブレットを使用し、各学期、各生徒のレベルに合った練習ソフトを使用した授業を取り入れる。
また、テスト前や入試前だけでなく、年間通して家庭学習に取り組む仕組みを考える。一例として、数学科では、年間計画で小テストや授業で効果測定を行う日を計画し、その予定を生徒にも周知する。短い周期の測定に合わせて生徒は学習するため、結果として家庭学習の増加につなげたい。
- ⑤ 今後も生徒の実態に合わせた習熟度別少人数授業を継続的に行っていく。また、指導方法を担当教員ひとりで考えず、週1回の教科会を利用して教科全体で検討していく。
- ⑥ 今まで実施してきたキャリア教育を評価・分析し、より将来について考える機会となる取組へと改善する。また、職場体験学習などにおいて、生徒の意識を高めるよう事前指導を改善する。
- ⑦ 水泳大会や球技大会などは、アンケートで「来年度もやりたい」と答えた生徒が90%を超えた。さらに関心が高まるように行事の改善を行う。
生徒自身が安定的に健康を保持増進する意識を持つために、主体的な活動や学校保健委員会の工夫が必要である。また、健康行動を深めていく取組を工夫する必要がある。

(様式 2)

大阪市立田島中学校 平成 31 年度 運営に関する計画・自己評価 (総括シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組まず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【その他】小中一貫した教育の推進 <u>学校園の年度目標</u> ① 児童・生徒・教員の連携・交流を図る検討組織を活性化する。 ② 9 年間の小中一貫した教育を 3 校教員で協働して取り組む。	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【施策 8 施策を実現するための仕組みの推進】 9 年間の教育課程の構築をめざし、教員の合同研修・合同会議を実施する。 指標 年に 3 回以上実施する。	B
取組内容②【施策 8 施策を実現するための仕組みの推進】 6 年生の児童による中学校生活体験を実施する。 指標 事後アンケートで肯定的回答を 80%以上にする。	A
取組内容③【施策 8 施策を実現するための仕組みの推進】 兼務発令を行い、小中一貫教育を進めていく。 指標 英語科・美術科の中学校教員を校区小学校に兼務発令を行い、それぞれの教科を校区小学校に週 1 回ずつ授業を行う。	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
【年度目標の進捗状況】 <u>学校園の年度目標</u> ① 管理職は三校校長会議を月 1 回実施しており、三校の組織的な連携・交流を深めてきた。また、小中連携コーディネーターや特別支援コーディネーターが中心となり、小中連携行事の打合せなど、実務的な会議を学期に 1 回以上実施した。 ② 今年度より三校教員の合同会議を実施し、現在の小学校・中学校それぞれの教育課題を共有し、また小中一貫校に向けた情報共有を行った。 【各取組内容の進捗状況】 ① 7 月・12 月に、三校教員合同会議を開催し、小中 9 年間の一貫した教育をテーマに、合同研修および教育課程、健全育成、ICT の 3 部門に分かれた意見交換がなされた。1 月

には ICT をテーマに三校教員研修会を実施した。

- ② 6 年生児童を、体育大会（6 月※雨天中止）、部活動体験（10 月）文化祭（10 月）に、5 年生児童を、芸術鑑賞会（11 月）に招待した。文化祭に参加した 6 年生児童を対象に行った事後アンケートも肯定意見が 100%と、田島中学校への興味・関心が高まったといえる。
- ③ 英語科・美術科は、週 1 回、校区内小学校で授業を担当した。行事等の都合で授業に行けないこともあったが、英語科では、授業に行く度に、小学校における英語の基礎作りの重要性を感じた。美術科では、小学校の授業担当者と事前に連絡を取り、特に技術面での指導を中心に行った。概ね計画通り実施できた。

次年度への改善点

- ① 小中 9 年間の教育課程の構築を目指し、より具体的な議論へと発展させる。
- ② 各取組で、小学生と中学生が交流できる仕組みを検討する。また、雨天中止ではなく、順延して参加できるよう三校で調整をしておく。
- ③ 英語科・美術科だけでなくすべての教科において、義務教育 9 年間の指導を意識し、小学校の授業や教材研究に積極的に参画していく。